



モデル事業が TVKで放映されました!

放送日 「LOVEかわさき新春特別番組」
1/1
(日・祝)



椿の虫食い葉を取り除く作業の様子



川崎の“LOVE”な情報
を伝える報道番組
「LOVEかわさき」 毎週土曜 9:00-9:15



吉垣花園では露地切花や枝物などほとんどの栽培品目で自然栽培や無農薬、無化学肥料栽培を実践しています。(一部、低農薬もあります。)

これまで、吉垣花園では福祉団体との連携による農業トライアルを実施してきましたが、今回は椿の虫食い葉を取り除く集中力と丁寧さが求められる作業が行われました。

- 【主な生産品目】
- 1月 梅、サンシュユ、ハクレン
 - 2月 はなもも
 - 3月 桜(5種類)、木イチゴ、ツツジ、姫水木
 - 4月 ジューンベリーの花、ペニモモ
 - 5月 カンパニュラ、斑入りギボウシ、ヒメヨウブ、モッコウバラ
 - 6月 ジューンベリーの実、ヒベリカム、姫ヒマワリ、ミント、アジサイ、クレマチス
 - 7月 フロックス、小菊、アメリカリヨウブ
 - 8月 ケイトウ
 - 9月 ケイトウ(ピンク・オレンジ・レッド)、石化ケイトウ
 - 10月 ケイトウ、コスモス、ロシアンオリブ、ミント
 - 11月 椿、豆柿、クリスマス花材多数(ヒムロシギ、ヒドリジョウゴ、終南天、ユウカリ、椿など)
 - 12月 白梅、ロウバイ、大王松

利用者へのインタビュー
農作業体験の感想は？
「椿の葉っぱ取りが楽しかった。実を採らないようにすることが難しかった。」

.....

吉垣花園・吉垣和也さん
「福祉の方が農家さんと一緒に農作業をして、いきいきできるような、そういう場をどんどん増やしてほしいなと思っています。一緒に楽しんで、仕事をしてもらえようかな体制を考えていきたいです。」

出演者 吉垣花園(麻生区王禅寺)、2にん3きゃく(麻生区早野:社会福祉法人らぼおのの樹)

TVK取材日 12月5日(月)

「遊休農地の活用と障がい者の雇用創出」事業

川崎市「農工商等連携推進事業」PR誌

発行日 平成29年3月24日
発行者 川崎市農業振興課

川崎でつながる都市農業

～都市農業活性化連携フォーラム、モデル事業を通じて～

「農工商等連携推進事業」とは？

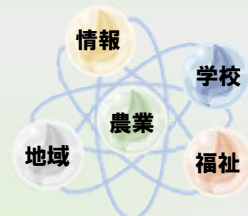
川崎の農業が多様な主体との共生による新たな農業価値の創造を図る事業で、平成28年度は、「都市農業活性化連携フォーラム」を設置し「連携の場」づくりを行う中で、連携を進めるための先導モデルとして、3つの連携分野においてモデル事業を実施しました。

多様な主体を抱える川崎で、多様な主体が出会い、連携することによって両者の有する強みを発揮し、川崎らしい都市農業が生まれ、展開、発展していくことを期待しています。

3タイプの連携モデル事業

- 農業 情報 A** ICTを使った施設園芸における省力化・効率化
- 福祉 農業 学校 B** 福祉農業者等による遊休農地の活用
- 地域 農業 学校 C** 農業系大学と地域が連携した農業振興地域の活性化





平成28年度 「農商工等連携推進事業」モデル事業成果

ICTを活用した養液土耕栽培による省力化と生産向上への取組 株式会社ルートレック・ネットワークス

農業×情報産業

次世代養液土耕システム「ゼロアグリ」

ゼロアグリ（ICT養液土耕栽培システム）は、これまで見えなかった土壌の状態が、作物にとって重要な影響を与えることに着目し、土壌の環境を把握することで、作物の生長状態に合わせて、培養液の供給を予測制御するシステムです。

※ハウス内に置かれた土壌センサーで、地温、土壌水分量、土壌EC値を測定し、土壌の状態を把握します。

都市農業では、多くの農家が限られたほ場面積で、少量多品種の作物を生産しています。このような中で、市内の施設園芸農家が保有する既存の施設にゼロアグリを設置することで、かん水施肥管理を自動化し、農作業の省力化と生産性向上を目指す実証を行いました。設置したトマト農家では、かん水と施肥の作業時間が1日あたり平均で30分削減され、削減された時間を他の作物の作業に充てることが可能になったとの成果を得ることができました。

また、果実が変形することが少なく、形が良くなるほか、消費者ニーズが高いとされる中玉サイズが結実しやすく、品質が安定するという利点も確認できました。

都市農業においても今後ゼロアグリ等のICT技術を活用することのメリットを広く市内農家に展開していくことが期待されます。



生育途中のトマト
撮影日2017.1.30

遊休水田の活用と福祉団体との連携 一般社団法人カワサキノサキ

農業×福祉団体

**カワサキの地酒「田ゆう」を
復活させるプロジェクト**

川崎市北部の農地維持のため、かつて市民の連携によって作られていた川崎の地酒を復活させることを通じて川崎の水田を守っていきたくと考え、①早野地区を知ろう。②早野地区で汗を流そう。③田んぼを体験しよう。④座学を通じて都市型農業や田んぼやお米を知ろう。⑤日本酒を学ぼう。⑥地域のコミュニティに支持された農業を見てみよう。などの取組みを農家、市民、多業種の連携により行っていくことを実施しました。

川崎市地酒復活プロジェクトキックオフイベントとして、プロジェクトに興味をもった市民49人が参加し、①川崎地酒「田ゆう」誕生の経緯 ②田んぼの活用事例 ③「田ゆう」復活のための各種検討をグループセッションし、様々な意見や提案が生まれた。その他に、宮前区初山のとももり谷戸にて稲刈りの実施や、とももり谷戸の米と、はぐるま農園で育てた大豆を材料に、味噌作り体験を実施しました。

「田ゆう」の発起人、米農家さん達と共に、酒蔵会社を何度か訪問した結果、新しい地酒づくりに意気投合し酒造りが決まりました。



泉橋酒造見学の様子

稲刈り：市内宮前区初山ととももり谷戸

遊休農地の活用と障がい者の雇用創出 有限責任事業組合次世代農業・食品循環研究所

農業×福祉団体

福祉施設と農業者の仕事のマッチング

川崎市における、既存の施設や既存の農地を使った障がい者による農作業のトライアルを実施し、課題を抽出するとともに、農業者、福祉施設、福祉施設、マッチング事業者との継続的な連携を模索します。

また、特別支援学校の生徒がほ場で農作業を行う際の課題抽出するとともに、学校教育のカリキュラムへの組み込みについても試みます。

農業者と福祉施設の連携を目指し、農作業のトライアルを実施し、課題の抽出を行いました。

施設利用者の作業レベルに応じた仕事内容と費用を検証するため、花き、みかん・なしの協力農家等で、草むしり、枝拾い、収穫、選別作業等を行いました。

そのほか、学校の授業カリキュラムに農作業を組み込むため、県立麻生養護学校では、援農ボランティア団体が学校のほ場管理支援を行う試みを、市立中央支援学校では社会福祉法人はぐるまの会ほ場で農作業を行う試みを行いました。



除草作業



梨農園で枝拾い

アスパラガスの新たな栽培方法 新規ホーラーを使った「採りつきり栽培」 明治大学農学部

農業×大学

作業負担の軽減と、低コスト栽培

アスパラガスの栽培について、新規ホーラー（定植器具）を使用することにより、栽培のハードルを下げ、多くの生産者に栽培してもらおうことを目指します。また、アスパラガス栽培による地域の活性化の可能性についても併せて検討します。

通常、定植後3年目から収穫が始まり、10〜15年かけて繰り返し立茎し、株を養成して収穫を続けられるアスパラガスですが、「採りつきり栽培」では初年度の株養成だけで翌春に採りつきりしてしまうため、病気のリスクが軽減され、初心者でも取組みやすい栽培方法です。

新規ホーラーを使用することで、風や低温にさらされにくく、慣行では3〜5月定植のところ、2〜3月の早期定植が可能になりました。

11月には明治大学生田キャンパスでセミナーを開催。また、1月に生産組合黒川支部で農家の方を対象に、「採りつきり栽培」について講習会を開催しました。その際に、先行して栽培している現地の実証試験報告も交えての話がありました。

3月には黒川地域で定植講習会を行いました。



ホーラーの外観
(左：新栽培法 右：慣行法)

講習会の様子

